

日露戦争は明治37年2月に始まりました。「歴史点描19」では、明治37年の「備忘録」にみえる日露戦争について書きましたが、今回は、明治38年分を中心にみていきます。

明治38年は、前年のような「多人数送る」という記述はないものの、次々と入営、出征していく様子うかがえます。「5月29日関野陸太郎君、海軍水兵志願合格入団に付、駅迄送る」や、「7月24日召集解除兵金田岩太郎君、再召集せられたり」など「備忘録」に名前が出て来る人物だけでも、興浜から、1月4名、2月1名、3月1名、4月4名、5月1名、6月3名、7月4名、8月1名の入営または出征が確認できます。(同一人物の入営、出征の記録については、入営のみ数えています。)一方で、「5月16日紫嶋・清水兩人遺骨向いに馱行」「6月9日紫嶋謙次郎君外6氏合同葬式挙行」の記述もあります。

9月4日ポーツマス条約が調印され、日露戦争は終結しましたが、「備忘録」にはその記述はありません。しかし、その後、出征した人たちの凱旋の記述が多数みられます。また、11月魚吹八幡神社で「放生池記念碑建設」、「征露記念物として戦利品下附願」等について話し合わせ、可決されたことも記されています。

これらのほか、「備忘録」には、戦費調達のための国債発行や増税、また、旅順陥落時の提灯行列についての協議等の記述もありますが、次の機会にゆだねます。

「戦利品」は魚吹八幡神社だけでなく、近隣の神社等にもあり、なかには、日露戦争に出征した個人が奉納した戦利品(砲弾の破片など)をはりつけた絵馬もあります。引き続き「備忘録」を読み進め、あわせて「戦争遺跡」についても調べていきたいと思えます。

網干歴史講座会員 垣内 小林淳子



魚吹八幡神社・放生池の「征露記念碑」



魚吹八幡神社に残る「戦利品」  
台座には「戦利兵器奉納ノ記」が刻まれています。